

平成12年11月1日
林 野 庁

「モデル森林の推進に関する国際ワークショップ」第4回会合
- 山梨ワークショップ - の概要(結果報告)

1. 日程及び場所

平成12年10月23日(月)~27日(金)

全 体 会 合: ベルクラシック甲府(山梨県甲府市)

現 地 視 察: 山梨県森林生態系モニタリング調査地(同須玉町)

県産材供給中央拠点(同白根町)

2. 参加者

アジアを中心とした17カ国、10国際機関・NGO等を含む100名以上が参加。

3. 主催等

主 催: 林野庁、山梨県

協 賛: 国連食糧農業機関(FAO)、国際モデル森林ネットワーク事務局(IMFNS)

4. 目的

モデル森林等のフィールドでの活動の結果を国や地域の政策に反映させる方策について検討・意見交換することを目的に開催。

5. 概要

(1) 議論の流れ

モデル森林の取組など持続可能な森林経営の現場レベルでの活動成果を政策に反映させる方策について、様々な国、組織からの基調講演、事例報告や、山梨県で取り組んでいるモニタリング調査と県産材供給中央拠点の視察を基にグループ討議を行い、レポートを取りまとめた。また、この4回シリーズのワークショップの総括として、モデル森林の取組みを通じて持続可能な森林経営を進めていく際に重要な事項を山梨メッセージとして取りまとめた。

(2) 現地視察について

山梨県が須玉町の県有林等で取り組んでいる森林生態系モニタリング調査地と白根町にある県産材供給中央拠点について視察を行った。

森林生態系モニタリング調査については、水質調査や生物多様性調査等、持続可能な森林経営の基準・指標を用いた森林の状況のモニタリングが先見的であり、現場での活動を政策策定プロセスへ反映させるのに有効であると高く評価された。また、今後、調査結果を県民にわかりやすく伝え、森林経営にフィードバックすることについて期待が表明された。

県産材供給中央拠点については、県産材を使った集成材加工施設、住宅展示場を視察し、地域材の有効活用や需要開発が、森林所有者の積極的な森林経営への動機付けとなり、持続可能な森林経営に効果的な影響をもたらすことが議論された。

(3) ワークショップのテーマについて

今回のテーマである「モデル森林等のフィールドでの活動の結果を国や地域の政策へ反映させる方策」として、モデル森林などのフィールド活動には

- ・ 利害関係者間の協議、報告、合意形成、コミュニケーション等の仕組みを有すること
- ・ 持続可能な森林経営の取組を実証し信頼できる情報源としての信用を得ること、
- ・ リスクを恐れず新しい試みに取り組むこと、
- ・ 長期的視野に立った運営を行うこと、
- ・ 地域の人材育成や体制整備を図ること、
- ・ 政策策定者と有効なコミュニケーションを図ること

等が必要であることが確認された。

(4) 意義

本ワークショップの結果は、今後、開発途上国等におけるモデル森林の取組を推進する上で具体的に生かされるとともに、今後設置が予定される国連森林フォーラム (UNFF) 等の国際的な議論の深化にも貢献できると考えられる。

林野庁計画課海外林業協力室海外企画班

TEL: 03-3502-8111(内線6212,6213)

03-3591-8449(直通)

担当: 柱本、上本、谷本